進捗状況の概要

国際機関等との連携による「国際協力人材」育成プログラムは、「国際公務（国連職員等）へのキャリア・パス形成を頂点とし、グローバル・イシューについて、国際社会が標準としている諸規範並びにこれを所管する国際諸機構を目的達成の手段として活用できる人材及び新たな理念形成に参画しうる人材を『国際協力人材』と定義し、その育成のための共同教育プログラムの構築」「国際協力人材の育成について質保証を連携機関と協働で行う『国際協力人材育成ネットワーク』の形成を目指す」という目標達成に向け推進している。共同教育プログラムの構築については、本プログラムにおいて初めて実現した明治・立教両大学間の学部間単位互換協定の締結をベースに、両大学において学部横断的な形式で科目を開講している。本プログラムでは、「国際協力人材」に必要な知性を「グローバル共通教養」（Liberal Arts for Global Common）と規定している。「グローバル共通教養」とは、冷戦崩壊後の激動の世界の問題の多様性とその因果関係、そして、これに国連を中心とした国際社会がとってきた対応について、その経緯を包括的に把握し、これを自らの個性に基づき説明できる力であり、さらに国際協力人材としての自らのキャリア・パスを構築できる力のことである。

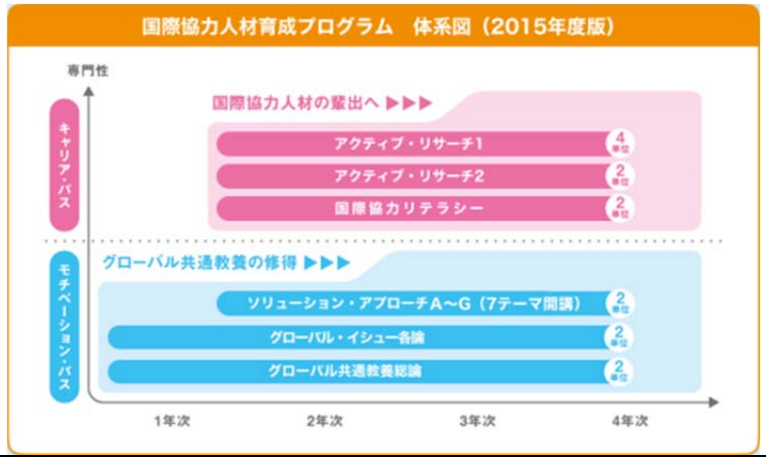
本プログラムで提供する科目は、三大学間で体系的に構築されており、グローバル共通教養を自らの言葉で表現することが出来る能力を身につけるための「モチベーション・パス」、国際公務を含む国際協力人材への進路を自らデザインできる能力を身につけるための「キャリア・パス」の２つのパスを設けている。平成 27 年度は「モチベーション・パス」科目を 9 科目、「キャリア・パス」科目を 3 科目開講（下図参照）している。各科目は、これまで三大学が有してきた教育リソースと、ステークホルダーである連携機関が有する国際協力に関するリソースを活用する内容となっている。プログラムを開始した平成 25 年度以降、履修者数（延べ）は平成 25 年度 319 名、平成 26 年度 280 名、平成 27 年度 347 名となっており、3 年間で本プログラム履修者総数は約 1,000 名になった。

質保証システムの構築状況については、ラーニング・アウトカムとして設定した「グローバル共通教養を自らの個性に従って表現でき、国際協力人材への自らのキャリア・パスを構築できる」に基づき、プログラムの「基幹ルーブリック」を教員・学生間で共有し、ルーブリックに基づいた「自己評価テスト」を学生個人が実施することで、自身の能力を確認する機会を提供するとともに、「学習ポートフォリオ（manaba folio）」を活用し、課題レポートの提出履歴等により学生が自身の学習度合を把握し、適切な学習と学習進捗度に応じた教員のサポートを受けられる体制を構築している。

ステークホルダーとの評価にあたっては、本プログラムの改善・改革に有意な意見、提言をまとめるため、幅広い機関と有識者で構成する「外部評価委員会」にて平成 26 年度に評価を実施した。

また、連携機関やその他、国際連合をはじめとした国際機関との連携も拡大しており、授業科目へのゲストスピーカー派遣のみならず、共同イベント等の多数開催している。本事業におけるシンポジウム等は、平成 25 年度以降、本プログラム主催、学生企画、国際機関との共同開催などを含め、計 28 回に及び、本プログラムの成果を広く社会に発信している。

今後の継続発展について、明治大学、立教大学、国際大学では、三大学ともスーパーグローバル大学創成支援に採択されており、各大学とも本プログラムを継続していくことを構想調書に記載し、本プログラムで培った実績や成果をもとにさらに発展させていく体制を構築している。



（代表校名：明治大学、取組名称：国際機関等との連携による「国際協力人材」育成プログラム）